



【ハマリバ改善グランプリ】

「防犯・防火・交通安全ポケットブック」作成しました!

港南区地域振興課

はじめに — 港南区の現状

平成17年度の市民意識調査の結果、市政への要望の第1位が、3年連続で、「防犯対策」になっているように、市民の安全・安心を守ることは行政にとって急務となっています。

景気の低迷など、経済情勢を反映した犯罪増加もありましたが、港南区の特徴として、市民生活にとって大きな利便性をもたらす道路や鉄道などインフラの整備・充実も、実は犯罪増加の一因であると港南警察署では考えています。実際の犯罪発生件数も、平成14年3707件、15年4357件（前年比、17・5%増）、16年4492件（前年比3%増）と増加傾向にありました。

防犯はもちろんのこと、防火や防災、交通安全への関心も高まる状況を受け、地域及び防犯・防火・防災・交通安全関連機関を構成団体とする「港南区安全安心まちづくり推進協議会」を平成16年11月19日に設立しました。増加する犯罪、火災、交通事故をどうにか減らしたい、いつ発生するかわからない災害に備えたいという想いから、日頃から各団体・行政機関が協力しあえる体制作りを進めています。

行政としてできること

2

(1) ローマは一日にしてならず
安全で安心なまちづくりのため



に、自分たちには一体何ができるのか。しかも、防犯から交通安全まで「安全・安心」の定義は広く、暗黒模索の状態でも活動を始め、その中でも、すぐに自分たちができることの1つとして、地域の防犯・防火パトロールへの参加がありました。

区内では自分たちの住む地域を守るため、自主的に防犯・防火パトロールを行う自治会・町内会が増加しています。平成16年3月には18団体がパトロールを行っていましたが、平成16年12月には100団体まで増加しました。その後も増え続け、平成17年11月には117団体になっています。

警察署及び区役所が地域に出向き、パトロールを効果的に、長く続けていただくコツなどを防犯講習という形でお伝えした後、合同で地域を巡回するという内容となっています。区内での実際の空き巣被害状況などを交え、犯罪が他人事ではない

ことを、まず皆さんに意識して頂くことから始めました。

パトロールへの参加活動を進めている中で、防犯講習で話していることを文章にして地域の皆さんに配りたいという要望が警察署からあがってきました。紙面にして配ることで、当日パトロールに参加できない人にも同じ情報を伝えたいという気持ちから出たアイデアでした。ところが、警察から出された文章はA4サイズの紙にぎつりと文字が並んでおり、有益な情報がたくさん詰まっているにもかかわらず、読むことを躊躇してしまう、いわゆる「お役所の文書」でした。そこで、区民の皆さんにとって少しでも読みやすく、気軽に手にとってもらえるように、A5版サイズの冊子へと変更するなど、区役所で手を加え、前身である「防犯・防火パトロール・ポケットブック」を作成しました。

(2) より多くの方のために

防犯講習の内容を文字にすることで、そこに参加された方やそのご家族には情報が伝わるようになりました。しかし、防犯は各家庭での取り組みが重要であるにもかかわらず、パトロールに参加されるのは自治会・町内会でも一部の方に限られています。そこで、巡回しながら、その地域の家々にポケットブックを配布してみてもどうかという最初の提案が、安武港南区長から出されました。

た。そこで、もう一歩踏み出してみようとして、区内全世帯配布の可能性について担当内で検討を開始しました。

3 広告事業の導入

(1) 無ければ作り出す

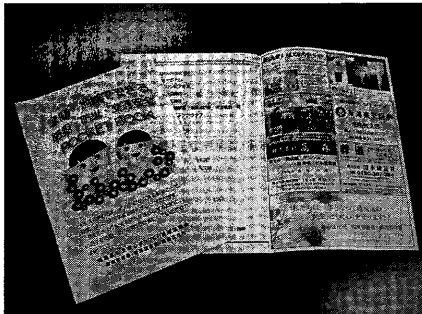
区内の世帯数は約9万。また、区民利用施設での配布を含めると10万部を作成する必要があります。その数字をベースに、制作費を見積ると、約240万円。それに対して、

港南区の防犯関連予算は555万円。既に、使途の決定している予算が422万円と、ポケットブック作成のためにこの予算を執行することが困難であることは明白でした。区民利用施設での配布に留めることや

次年度に事業化すること、掲載内容の縮小など、妥協案は数多く出されました。しかし、中途半端なことをしても大きな効果は得られないということも良く理解していました。そこで、既に横浜市役所内の多くの事業で取り入れられていた、広告事業に挑戦することとなりました。

財政局広告事業推進担当を通じ、広告代理店を募った結果、一社が名乗りを上げてくれました。防犯への関心も高いことから防犯・防災関連企業等の協力を得ることはそう難しいことではないということでした。

(2) 区民の要望に応えるために



前身のポケットブックにはパトロール活動を長く、効果的に続けるコツが盛り込まれていたことは前述したとおりですが、全世帯配布となつたことを受け、区民の要望に幅広く応えようと、内容の充実を図ることにしました。港南警察署、港南消防署、港南区役所の三行政機関が協力して、内容を監修し、防犯のほかに、防火、交通安全に関して、家庭でも実践できるちよつとしたコツを掲載しました。ポケットブックには、一見当たり前のことが載っているようですが、その当たり前のことをまずやってみることが犯罪、火災、交通事故件数の減少など、大きな効果を生み出すと私達は考えています。

(3) 広告事業の難しさ

内容の編纂が概ね終了した頃、実は協賛企業がほとんど集まっていないうことが判明しました。企業

協賛なくして、事業は成立しません。区役所の経営責任職から担当職員まで自ら営業に向き、何とか「安全・安心」を理念とする企業等19社の協力を得ることができました。当初、協賛が得られなかった原因として次のことが考えられます。

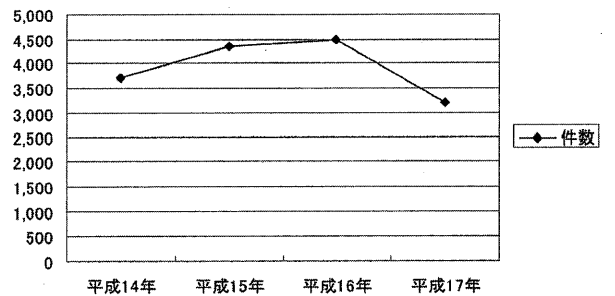
- ・ 広告代理店に協賛企業の募集を任せたまにしました
- ・ その結果、各企業に事業の趣旨がきちんと伝わらなかった

その他にも原因は考えられますが、この二つが大きいのではないかと今後の事業への教訓としています。一方で、これまで区役所と連携のなかった区内企業等が私たちの事業に興味と理解を示し、結果として「広告」という形で区政への協力を示して頂きました。これは、行政と地域の協働という観点から、大きな意味を持ち、これからの公共のあり方を考察する上でも、非常に重要な一歩となるのではないのでしょうか。

4 事業実施の効果

このポケットブックの作成は、安全で安心なまちづくりのための活動の一部ではありません。しかしながら、2つの大きな改善をもたらしました。

一つは、港南警察署管内（＝港南



区内と同義)の平成17年度犯罪発生件数が平成16年の4,492件から3,203件と、約3割減少したことです。神奈川県全体でも2割減少していますが、それを上回る結果が現れたことは特筆すべきことであると考えています。

もう一つは、予算のない中で、知恵を絞って、財源を搾り出したことで、防犯、防火、交通安全に関する区民のニーズに応えられたことです。なければ産み出そう、ないからこそ産み出そうという気持ちは、他の事業を運営する際にも大いに役立つと思っています。また、思いつきやひらめきの芽を潰さない職場環境の構築も非常に重要であることを痛

感したポケットブック作成でもありました。

5 おわりに

私達は引き続き、犯罪だけではなく、火災、交通事故などの減少も目指していかなければなりません。それには、区役所・警察・消防が、いつでも協力し合える体制づくりが必要となります。

港南区では毎月1回、区役所総務課、地域振興課、福祉保健課、消防署予防課、警察署生活安全課、交通課、防犯協会、交通安全協会の職員で構成される「港南区安全安心まちづくり推進協議会」の幹事会を開催するほか、必要に応じて、それぞれの機関の情報や意見の交換を行っています。このように日々、連絡を重ねることで、私達は顔の見える関係を築くことができました。

実際に、三行政機関が一体となつて、港南区の安全を推進する姿勢を、ポケットブックにメッセージ広告を掲載するとうかたちで表しました。これは、警察、消防、区役所の有志職員から募金(10万円)を集め、広告協賛枠を一枠購入したものです。今回、私たちみんなで協力し、作り上げたポケットブックが、グランプリを受賞できたことは、今後の活動への大きな励みとなりました。

▲堀口美子 港南区地域振興課